

# JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2016 No.6

## JACET 関東支部ニューズレター第 6 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 木村松雄 (青山学院大学)

JACET 関東支部ニューズレター (WEB 版第 6 号) をお届け致します。関東支部副支部長であり関東支部ニューズレター委員会委員長の佐野富士子先生 (横浜国立大学) と副委員長の下山幸成先生 (東洋学園大学) を初めとする委員会の先生方の不断のご尽力にまずもって衷心より御礼申し上げます。本ニューズレターが無事刊行されますことは、委員長と副委員長を核とする委員会の先生方と関東支部を支え運営して下さる多くの先生方の深いご理解と力強いご支援があってこそその成果に他なりません。改めて御礼申し上げます。改めて御礼申し上げます。

御存知の通り、2013 年度より学術研究発表は、「関東支部紀要」(*JACET-KANTO Journal*)に掲載し、それ以外の活動報告は本「ニューズレター (WEB 版)」(9 月と 3 月の年 2 回刊行)に掲載しております。今回は、2015 年度の第 2 回目 (通

算第 6 回目) のニューズレターとなります。「関東支部紀要」と「ニューズレター (WEB 版)」は JACET 関東支部の 2 大刊行物であり、それぞれが独立した存在として機能する一方で、学会本体を支える車の両輪のような相互補完的な役割を有しております。どうかこれからもお読み頂き、ご批判とご指導を頂ければ幸いです。

2016 年度 JACET 関東支部大会は、2016 年 7 月 3 日 (日) 早稲田大学 (早稲田キャンパス) にて、「Exploring the Potential of CLIL Beyond Europe (ヨーロッパの域を超えた CLIL の可能性を求めて)」を大会テーマとして開催されます。基調講演には、CLIL の研究者として名高い Dr. Margaret Gearon (Melbourne Graduate School of Education) を招聘し最新の知見を紹介して頂く予定です。また笹島茂先生 (東洋英和女学院大学・関東支部副支部長) を中心に CLIL の特別シ

### 目次

|  |       |
|--|-------|
| ・ 巻頭言<br>支部長 木村松雄.....   | - 1 - |
| ・ 第 2 回支部総会報告<br>支部事務局幹事 高木亜希子.....                                    | - 2 - |
| ・ 月例研究会報告<br>月例研究会委員長 山本成代<br>月例研究会副委員長 河内山晶子.....                     | - 3 - |
| ・ 青山学院英語教育センター・JACET 関東支部共<br>催後援会報告<br>支部事務局幹事 高木亜希子<br>支部会員 辻りこ..... | - 5 - |

|   |        |
|---|--------|
| ・ 支部研究会活動報告 (2015 年度)<br>各研究会代表.....      | - 7 -  |
| ・ 支部大会運営委員会からのお知らせ<br>支部大会運営委員長 新井巧磨..... | - 9 -  |
| ・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ<br>支部紀要編集委員長 伊東弥香..... | - 9 -  |
| ・ 事務局だより<br>支部事務局幹事 高木亜希子.....            | - 10 - |

ンポジウムを企画しています。全体シンポジウムは、10周年記念として、「大学英語教育の現状と課題 (Current Condition and Challenges for English Education in Universities)」と題し、寺内一先生 (JACET 会長・高千穂大学)、田地野彰先生 (京都大学)、村田久美子先生 (早稲田大学) のお三方にそれぞれ現状の分析と提案をして頂く予定です。お三方の提案は、2017年度 JACET 国際大会 (関東支部担当) のテーマにも連動するものと大きな期待が寄せられています。奮ってのご参加を心より御願ひ申し上げます次第です。

## 第2回支部総会報告

支部事務局幹事

高木亜希子 (青山学院大学)

2015年11月14日(土)に、青山学院大学17号館17406教室に於いて、2015年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2016年度の事業計画、予算案、支部人事の報告と承認が行われました。以下に内容を記載いたします(なお、予算案は省略)。

### ■2016年度事業計画■

#### I. 大会、セミナー等の開催 (1号事業)

##### (1) 支部大会の開催

名称：2016年度関東支部大会

日時：平成28(2016)年7月3日(日)

場所：早稲田大学

規模：約350名

##### (2) 支部講演会の開催

名称：青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催英語教育講演会

日時：平成28(2016)年4月、9月、10月、12月、平成29(2017)年1月の5回を予定

場所：青山学院大学

内容：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の

研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。

- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模：毎回約40名

##### (3) 支部月例研究会の開催

名称：関東支部月例研究会

日時：平成28(2016)年5月、6月、11月の3回を予定

場所：青山学院大学

内容：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模：毎回約40名

#### II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行 (2号事業)

(1) 『JACET 関東支部紀要』第4号 (英語名：*JACET-KANTO Journal*)

日時：平成29(2017)年3月31日

規模：約1100冊

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」第7・8号

日時：平成28(2016)年9月、平成29(2017)年3月の2回を予定

目的：

- ・支部の最近の動向を知らせることで支部会員の帰属意識を向上する。
- ・英語教育の関連情報の発信により支部会員の研究活動を支援する。

※JACET 関東支部 HP に pdf で掲載

### Ⅲ. その他 (5号事業)

#### (1) 支部総会の開催

名称：2016年度第1回、第2回関東支部総会

日時：①平成28(2016)年7月

②平成28(2016)年11月

場所：早稲田大学、青山学院大学

目的：①2015年度の関東支部の活動、会計報告、および2016年度の関東支部の活動計画、予算案および人事案を示す。

②2017年度の関東支部の活動計画、予算案および人事案を示す。

#### (2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：平成28(2016)年4月、5月、6月、9月、10月、11月、12月、平成29(2017)年1月、3月

場所：青山学院大学

目的：支部の運営における審議、計画の立案

### ■2016年度支部人事■

#### (1) 2016年度からの新研究企画委員

菊池尚代(青山学院大学)

米山明日香(青山学院大学)

#### (2) 支部財務委員長の変更

旧財務委員長 佐竹由帆(駿河台大学)(任期：2015年4月～2016年3月)

新財務委員長 辻りこ(青山学院大学)(任期：2016年4月～2017年3月)

### 月例研究会報告

月例研究委員会委員長

山本成代(創価大学)

月例研究委員会副委員長

河内山晶子(明星大学)

### ■2015年度下半期活動報告■

2015年度は5月、6月、11月の3回にわたって月例研究会を開催した。下半期は、11月14日

に東京大学大学院生の田中祥子先生をお招きして、「夜間定時制高校生にとっての英語学習の意味：事例研究を通じた検討の試み」という題目で発表をお願いした。発表内容に関しては後述の11月月例研究会報告参照。

### ■2016年度上半期活動計画■

2016年(上半期)5月、6月(下半期)11月の年3回、青山学院大学にて開催予定。英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達に講演を依頼し、最新の研究成果や知見を発表していただく。

(山本成代・創価大学)

### ■月例研究会 11月報告■

日時：2015年11月14日(土) 16:00-17:20

場所：青山学院大学

題目：夜間定時制高校生にとっての英語学習の意味：事例研究を通じた検討の試み

講師：田中祥子(東京大学博士課程)

まず近年の英語教育目的論として、講師の先行研究を踏まえ、以下の5つが挙げられた。①「入試や昇進のため」、②「実用的コミュニケーション力育成のため」、③「自己表現能力育成のため」、④「異文化理解のため」、⑤「思考力育成のため」。その後、上記各々の概要と内含される課題が示された。

① 「入試や昇進のため」は、道具的動機づけとされ、英語教育論者から否定的に捉えられる傾向にあるものの、実際には広く活用されている。

② 「実用的コミュニケーションのため」として仕事で使える英語を求める機運が高いが、「実際はスーパーエリートのみを目的としている」と警鐘を鳴らす識者も増えている。

③ 「自己表現力育成のため」と言う人々は、日本人が日本の伝統的文化や特質を外国人に発

進する必要性を主張する。しかし、外国人と交流する可能性が低い人にとっては、説得力に欠ける目的であると言える。

- ④ 「異文化理解のため」というのは、近年の脱英米志向の高まりにより、英語圏以外の国々への理解も促進する必要があると主張するもので、一般的にも受け入れられている。
- ⑤ 「思考力育成のため」という目的論の主張は、英語教育は複雑な言語を理解する能力の養成であり、母語への気づきに通じる教養であるというものである。しかしこれは寺沢 (2014) が指摘するように、戦後、教育の大衆化により教養の意味が「下方拡張」された結果成立した教養論で、理論が先行した「結果としての教養」である。その意味で英語教育目的論の拠り所と成るには脆弱である。

ここで講師は、いずれの目的論においても議論の対象は「標準化された日本人英語学習者」であり、そのような学習者像から捨象されている学習者達がいると主張する。その「捨象されている学習者」とは、非日本語母語話者や、不登校者等のマイノリティ集団である。そして、そのような問題を孕む従来の英語教育目的論に、今後は新たな視点が必要なのだというのである。その上で、夜間定時制高校は、新たな視点を得るための研究対象の一つとして位置付けられると述べられた。

以上、学校英語教育目的論の問題点とその理由を説明した上で、後半は、講師が実際に授業観察や面接等で関わっている某夜間定時制高校が紹介され、そこで収集されたデータ、さらに関連する社会調査データが一部開示された。データから読み取れたことは、①子どもの数が減少する近年でも、夜間定時制高校の生徒数は減少していないこと、②夜間定時制には、年齢、就労状態、国籍、母語、経済状況、特別支援必要性の有無などに関して、多様な背景を持つ生徒が集まりやすいこと、③定時制高校の形態も多様化し、全日に諸々の理由で行けない生徒にとっての再挑戦の場所とな

っていることなどであった。収集量は未だ十分でなく、それにふさわしい分析の仕方も模索している段階ではあるが、注目に値すると講師が主張したのは、これらのデータに見られる多様性と意外性である。

既述のように、夜間定時制高校に通う学習者は極めて多様である。彼らの背景も実にさまざま、夜間定時制を選んだ理由もいろいろである。そのような彼らの言動を丁寧にしかも客観的に記述し、眺めなおしていただくことにより、教育上重要な気づきや発見が得られる可能性が大いにありと講師は言う。それゆえにこそ本研究に価値を見出し果敢に取り組んでいるという講師の気概が伝わってくる講演であった。

質疑応答はコメント (C) 2 件、質問 (Q) 3 件であった。

コメント

C 「研究対象として定時制に目を向けた点を評価したい。定時制という雑多な要素の詰まった学習集団を『国内異文化』と捉えた点が斬新である。」

C 「誰が英語学習者なのか？」との観点は面白い。自分はシニアの英語学習に関心がある。」

質問

Q 「定時制の大学進学率は？」

A 「チャレンジスクール等で道が開けることもあるが、基本的には低いようだ。」

Q 「定時制高校が、学校英語教育目的論の対象外とされているとの判断において、黒か白かでなく程度の違いとして捉えることはできないか？」

A 「どんな子にも一流の教育を受ける権利があると思っている者として、母語の種類によって差別されている外国人学習者、特別支援地域の学習者など、社会問題が絡んでいる事例に遭遇すると、研究においてその社会問題にどう切り込めるかを考えざるを得ない。」

Q 「分析の際『ある一個人のライフストーリーの中での英語学習の意味』と、『社会全体の問題

として教育社会的に切り込むのか』とが考えられるが、後者にする意義は何か？」

A「個人と社会のどちらにフォーカスするとよいかは、実際に現場に足を運んで時間をかけて判断していきたい。」

(河内山晶子・明星大学)

## 青山学院英語教育研究センター・JACET

### 関東支部共催講演会報告

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

支部会員

辻りこ（青山学院大学大学院）

### ■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第3回）■

日時：2015年10月10日（土）16:00-17:30

場所：青山学院大学17号館6階17606教室

題目：「再考：英語教育を通して育てたい学  
ぶ力とは何か？」

講師：清水公男（文京学院大）

本講演では、英語教育を4技能の統合化や発信力の充実の観点のみから捉えるのではなく、学ぶ力の観点から再考し、今後予測される授業モデルの変化やデザインについて講演者の実践に基づいた提案がされた。グローバル化の進行やこれまでの学力向上政策を踏まえ、現在学校で育てるべき学力の中身の問い直しがなされている。具体的には、教科・領域横断的なジェネリック・スキルとして、知識・技術を活用した課題解決力や思考力、判断力、探究力、創造力等の育成が重視されている。これらの力を育成するにあたり、学習者が自己を認識し、自己を取り巻く状況を把握した上で、状況に応じて自分の振る舞い方を変えていくために、メタ認知を働かせ、自己内対話や他者との対話を通して、学びの振り返りを行う機会を授業に組み込む必要がある。継続的な振り返りを

行うことで、体験した内容の意味が構造化・再構成され、経験へと昇華し、学びのプロセスが深まることとなる。

求められる力を授業やカリキュラムに取り入れる際は、ジェネリック・スキルを軸として、各教科内容に当てはめるのではなく、各教科で教えるべき本質的内容を軸として、各教科固有の考え方をジェネリック・スキルとの関係で再構成することに留意したい。授業をデザインする際は、学習者が主体となり、教師が学習者の学びを制御しないことが重要である。清水先生の勤務校で、「問いが立てられない」という学生が抱える課題を解決するために、4つの実践事例が示された。それらに共通するポイントは、授業の中で様々な問いを投げかけ、学生の気づきを促し、考えを引き出すような仕掛けづくりを行っていることである。思考のパターンの正解例を教えるのではなく、学生に様々な角度から考えるトレーニングを課すことで、学生自身の成長を促す支援がされていた。実践事例をお聞きしながら、まずは教師自身が、日頃から、柔軟かつ批判的な思考を育成するトレーニングを行う必要があると感じた。

(高木亜希子・青山学院大学)

### ■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第4回）報告■

日時：2015年12月12日（土）16:00-17:30

場所：青山学院大学14号館総研ビル10階第18  
会議室

題目：「CLILと協調学習の現状と課題」

講師：山崎勝（埼玉県立和光国際高等学校）

埼玉県和光国際高等学校は、CLILに関して、平成23年度より上智大学と連携実践研究を行っている。また、埼玉県教育委員会が東京大学（CoREF）と連携し、平成24年度より研究開発校として英語の授業における協調学習（collaborative learning）をCLILの一形態とし



のツールとしての役割に分けて整理がなされ、実際の英語教育での実践に関して報告された。その実践例として定着を目指す分散学習と協働学習を基本とした授業の紹介があり、本講演では教育学的理論と ICT の意義及び実践の両方の重要性が再認識された。ARCS モデルのように「おもしろそう (Attention)、やりがいがありそう (Relevance)、やればできそう (Confidence)、やってよかった (Satisfaction)」という気になるというとても興味深い講演であった。

(辻りこ・青山学院大学)

## 支部研究会活動報告 (2015 年度)

### 各研究会代表

#### ■テスト研究会■

代表：中村 優治

#### 1. 研究テーマ

今年度は、これまで最新の理論を取り入れつつ進めてきた「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法についての研究を、実践に結びつけることを目指して様々な検証と模索を行った。その際を中心としたテーマは、「Assessment literacy を踏まえたスキル統合型テスト作成のためのチェックリストの精緻化」と「スキル統合型テストを将来入学試験に利用する可能性とその問題点」であった。どちらのテーマについても新しいアセスメントの方法を教師教育に反映していく必要があるため、教師教育に関する書籍も読書会で取り上げた。

#### 2. 活動内容

(1) 上記目標に沿って下記の言語テスト、アセスメントに関する書籍の読書会を行い、各章について、毎月の例会で担当の委員が発表し、ディスカッションを行った。

・ Green, A. (2014). Exploring Language Assessment and Testing: Language in Action.

・ Wilson, R & Poulter, M. (2015). Assessing Language Teachers' Professional Skills and Knowledge (Studies in Language Testing #42).

(2) 評価に関するワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として9月10日にワークショップを実施した。昨年度に引き続き新学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価結果の分析を行った。

(3) 学会発表において研究成果を共有し、分析・議論を深めた。読書会から得た知見に加えて、国内外のスキル統合型テストの評価方法の分析、毎年開催しているワークショップのアンケート分析結果を基に、スキル統合型テスト作成のための Can-do チェックリストの精緻化を図った。マクロの側面では、そのようなテストを入学試験に利用する可能性と問題点を考える一方で、個々の教員が日々の授業の中でスキル統合型テストを作成できるように、上記 Green の唱える Assessment Cycle の考え方を反映させたテスト作成モデルを考案した。これらの結果をまとめて、7月に JACET 関東大会 (青山学院大学)、8月に JACET 国際大会 (鹿児島大学)、11月に JALT 全国大会 (静岡) で発表やシンポジウムを行った。

#### 3. 今後の活動予定

来年度はさらに実践の場に踏み込んで、実際にスキル統合型テスト作成を指導するワークショップを数回行い、そこから得られたフィードバックを基に日本の教育現場に適した代表的なテスト項目の種類、作問・評価方法などを考慮したガイドライン及びハンドブック作成を進める。

## ■談話行動研究会■

代表：岡田もえ子

談話行動の比較、異文化コミュニケーション、語用論的視点からの研究をテーマに講師を招き、公開講演会、研究発表会を開催した。研究会には会員の積極的参加があった。

[公開講演会]

日時：2015年6月12日（金）18：30～20：00  
会場：立教大学（池袋キャンパス）14号館4階401教室

演題： *Keigo and you: How signs and advertisements reach out to readers in Japan and the U.S.*

講師：Professor Patricia J. Wetzel（米、Portland State University）

[研究発表会]

日時：2015年10月20日（火）18:30～20:00  
場所：立教大学（池袋キャンパス）12号館地下第3・第4会議室

題目：Researching Cultures of Learning: A Cognitive Metaphor Perspective

講師：Professor Erich A. Berendt（清泉女子大学名誉教授）

日時：2015年12月4日（金）18：30～20：00  
場所：専修大学（神田キャンパス）地下13教室  
題目：Second Language Idiom Acquisition: The role of L1 transfer

講師 Dr. Ebru Türker（米、Arizona State University）

## ■授業学研究会■

代表 馬場 千秋

副代表 林 千代

### 1. 研究テーマ

本研究会は、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとしている。少子化、大学全入時代に伴う大学生の学力格差が生じている大学英語教育の現状を踏まえ、学習意欲のない

学生や英語を不得意とする学生への対処法とよりよい大学英語授業について探求している。また、「英語授業学」の理論構築のため、文献輪読を行っている。2015年度は、英語リメディアル教科書の分析を開始し、問題点、改善点を検討した。現在の会員数は15名である。

### 2. 活動内容

2015年4月25日（土）

於：マイスペース 市ヶ谷外堀通り店  
英語リメディアル教科書分析シート作成

2015年5月16日（土）

於：マイスペース 中野北口店  
英語リメディアル教科書分析シート作成および分析教科書選定

2015年7月25日（土）

於：マイスペース 中野北口店  
英語リメディアル教科書分析シートを用いた分析結果のまとめ

2015年8月12日（水）

於：マイスペース 中野北口店  
英語リメディアル教科書分析シートを用いた分析結果のまとめ

第54回国際大会での研究会ポスターセッション用ポスター作成

2015年8月29日（土）30日（日）31日（月）

於：鹿児島大学  
第54回国際大会での研究会ポスターセッション参加

2016年1月9日（土）

於：マイスペース 中野北口店  
今後の活動内容確認、2016年度の学会発表についての検討

2016年3月19日（土）

於：マイスペース  
英語リメディアル教科書分析、学会発表準備



### 3. 今後の活動予定

2016年度は、英語リメディアル用教科書の分析を継続し、その結果を発表する予定である。さらに、中部支部、関西支部の授業学研究会と連携し、研究発表を行う。また、研究会として、どのようなテキストが望ましいのかを検討し、実際にテキストの執筆を開始する予定である。

#### 支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長  
新井巧磨（早稲田大学）

今年の関東支部大会は、7月3日（日）に、早稲田大学早稲田キャンパスにて開催されます。今回は第10回記念大会となります。大会テーマは、「ヨーロッパの域を超えた CLIL の可能性を求めて (Exploring the Potential of CLIL Beyond Europe)」です。

基調講演には Dr. Margaret Gearon (Melbourne Graduate School of Education) と Dr. Russell Cross (同) をお迎え致します。さらに、今回は「特別シンポジウム」を設け、両氏に加え、笹島茂先生（東洋英和女学院大学教授）、伊東弥香先生（東海大学准教授）にご登壇頂き、CLIL の概要から日本・海外での実践や動向などについて解説して頂く予定です。

一方、全体シンポジウムでは「大学英語教育の現状と課題」と題し、田地野彰先生（京都大学教授）、寺内一先生（高千穂大学教授・JACET 会長）、村田久美子先生（早稲田大学教授）にお話して頂きます。

研究発表や実践報告などにもたくさんのご応募を頂いております。昨年同様、賛助会員である企業の方々による展示に加え、賛助会員発表もごぞいます。英語教材の活用法などにつきまして教室を使つての発表という形式で JACET 会員の皆様にお伝えして頂きます。

最後にお問い合わせがごぞいます。大会運営委員会

は、JACET 会員の先生方で発表の司会をして頂ける方を募集しております。大会終了後には各発表の様子を 100~200 字程度でおまとめ頂き、そのご報告を次号の Newsletter でご紹介させて頂く予定です。何卒ご協力賜りたく存じます。支部大会プログラムが 4 月中には郵送され、関東支部の web にもアップされますので、司会をお引き受け頂ける方は 4 月末日までに 2016 年度大会委員長の新井巧磨 (tack@aoni.waseda.jp) までご連絡ください。支部大会でお会いできることを楽しみにしております。

#### 支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長  
伊東弥香（東海大学）

現在、支部紀要編集委員会では、「関東支部紀要・第3号 (JACET-KANTO Journal Vol 3)」の再校作業を行っています(2016年3月発行予定)。会員の皆様には、7月の支部大会プログラムと一緒に4月中にお届けする予定です。新年度に入り、所属などの確認作業を終えた後に発送しますので、今しばらくお待ちください。

本号には、論文2本、研究ノート2本、実践報告1本を掲載しています。昨年7月20日に応募原稿を締切り、査読者の選定を経て第1次審査(8月~9月)、第2次~3次審査(10月~12月)を行った結果、この5本が採択されました。審査過程におきましては、査読者21名には多大なご尽力をいただきましたが、採択の可否に関わらず、査読者からの評価やコメントは投稿者にとって貴重なアドバイスになったことと確信しております。

今後も、査読システムを活用したピア・レビューによって、投稿者と査読者がお互いに学び合い、高め合う機会を提供することができれば幸いです。第4号の投稿締切日は2016年7月20日(水)です。皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

紀要編集委員会メンバー：伊東弥香（委員長）、  
今井光子、大野秀樹、長田恵理、小田眞幸（副委員  
長）、熊澤孝昭、武田礼子、濱田彰、古家貴雄、  
星野由子、Chad Godfrey、Paul McBride（敬称  
略、50音順）

**事務局だより**

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

**■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支  
部共催講演会及び月例研究会開催のお知らせ■**

下記のとおり、共催講演会を実施いたします。  
多くの皆さまの参加をお待ちしております。2016  
年度の月例研究会及び共催講演会は、4月、5月、  
6月、9月、10月、11月、12月、1月に開催す  
る予定です。詳細は支部 HP、支部会員 ML で  
お知らせいたします。

(1) 2016 年度第 1 回共催講演会

日時：2016 年 4 月 9 日（土）16:00-17:30

場所：青山学院大学 14 号館（総研ビル）9 階 第  
16 会議室

題目：「教科書のデジタル化の今後：その可能性  
と課題」

発表者：山内豊（東京国際大学）

**■住所変更届提出のお願い■**

支部会員の皆様に、支部大会のご案内や支部紀  
要を確実にお届けするために、転居の際には、  
JACET 本部事務局へ住所変更届けを提出してく  
ださいますよう、どうぞよろしく願いいたしま  
す。

**JACET-Kanto Newsletter 第 6 号**

発行日：2016 年 3 月 31 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 木村松雄）

編集者：佐野富士子、下山幸成

斎藤早苗、川口恵子

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部英米文学科

木村 松雄 研究室内